

ベトナム・ホーチミン日本人学校

平成22年6月19日

杉戸町立広島中学校 教諭 伊藤絵里

平成19年度より3年間、ベトナムのホーチミン日本人学校にて研修をさせていただきました。派遣中の3年間、「日本では簡単にできることがホーチミン日本人学校ではできない」と感じる事がたくさんありましたが、帰国し、日本の中学校での勤務も2ヶ月半が経過した今、「ホーチミン日本人学校でできていたことがここではできない」と感じ、悔しさやもどかしさを感じる事が多くなっています。

在外教育施設でのご経験をお持ちの先生方にとっては当然と感じられる内容となってしまうかもしれませんが、私の3年間の生活の中で、気づいたことや感じたことを記させていただきます。

1 ベトナム・ホーチミン市

- ・ベトナム国内最大の経済都市（首都はハノイ） ・世界2位のコーヒー原産国
- ・社会主義国家でありながら自由な商業取引を行っている
- ・年間を通して半袖で生活 ・1年の半分以上が雨季 ・旧暦が大切
- ・ベトナム語は中国語や日本語に似た部分を持つがアルファベットを使用している
- ・バイクで渋滞し、自動車の平均時速は17km/h
- ・ベトナム国内で調達できるものの物価が安い（2010年3月時点の値段）
例：タバコ1箱50円程度 ビール1缶50円程度 路線バス15円程度
 映画 250円程度 マンゴー1つ40円程度 缶コーラ20円程度
 タクシー初乗り 1.2km 60円程度

2 ベトナム人

- ・外国人に親切 ・英語や片言の日本語で話しかけてくれる
- ・細かいことは気にしない ・わずかな距離の移動でもバイクを使う（歩かない）
- ・買い物には常に会話が必要（値段交渉） ・先のことよりも今が大切
- ・背が低く細い人が多い ・国民の7割が栄養不足
- ・月収は通常1万円程度 ・食事は家庭で作るものではない（外食文化）

3 ホーチミン日本人学校の子どもたち

- ・小学1年生～中学3年生までが在籍 ・全校生徒数220名程度(21年度)
- ・中学生は総数40名程度 ・小学4年生以下は国際結婚家庭が多い
- ・駐在員・派遣職員・現地起業者の子どもたちがほとんど
- ・児童生徒の出入りやあらゆる国での生活経験者が多いため、自分と違う人を受け入れることが当たり前の環境にある
- ・英語を話さないが「理解できる」子どもが多い
- ・ベトナム語を話せるのは国際結婚家庭(母親がベトナム人)の子どものみ
- ・国際結婚家庭の子どもに日本語が不十分な場合が多い(思考言語が定まっていないので落ち着いて学習できない)
- ・学力が高い子どもが多い
- ・自由に外出できない

4 ホーチミン日本人学校での生活

- ・小学部では週3時間、中学部では週2時間、英会話の授業がある
- ・月曜日は7時間授業、その他の4日間は6時間授業を実施し、年間授業日数200日以上を内規とする
- ・部活動のかわりに週2回の課外活動を実施(小中合同)
- ・子どもたちは毎日家庭から弁当を持参(教員も必ず家庭で作った弁当を持参する)
- ・スクールバスを使用するため、子どもは放課後に学校に残って活動をする事ができない。委員会活動は昼休みに行う。
- ・漢字検定、英語検定(一・二次試験ともに)を実施
- ・年間を通してプールで水泳学習が可能である
- ・修学旅行(2泊3日)、自然学校(2泊3日)、職場体験、遠足を実施

5 ホーチミン日本人学校での英語の授業

- ・すべて英語で授業を進めることが可能(英語で冗談も言える) しかし、日本の中学生同様、英語を話さない
- ・週3時間のうち2時間がイギリス人講師とのTT
- ・週1時間はESL用の教材でリスニング活動を中心に行っていた
- ・英語を学習教科としてではなく、生活に必要な道具として扱うことができる
- ・英検を年3回実施。2次試験も実施している
- ・英検2級を取得できる生徒がいる。
- ・理解力については十分ついているので、授業内では表現力を養う活動を中心に行った

6 勤務して気がついた問題点

- 1 国際結婚家庭に生まれた子どもたちの日本語力とそれを学校で補うことを求める保護者
- 2 中学部の子どもたちの精神的成長を妨げる? 「小中併設」生活
- 3 スクールバス使用、部活動のない毎日、普段から歩かない生活、などを要因とした体力不足
- 4 中3、小6の進路決定時の始動する時期と情報入手の方法
※関東地方以外の地方では「高校受験案内」は出版されていません
- 5 県公立高校受験時の手続き
※都道府県によっては、保護者は数回の帰国が必要となります
- 6 教材や必要物資の調達
- 7 児童生徒へ、「日本の現実」を理解させること
- 8 派遣教員と現地採用・財団派遣教員とのバランス
- 9 土曜日に補修校が校舎を使用 インターナショナルスクールに通う日本人との価値観の違い
- 10 狭い日本人社会の中での派遣教員の生活

7 派遣教員として

- 1 海外で暮らす子どもたちの教育のために派遣されていることを忘れずに
- 2 現地では現地の文化に倣い、現地のことばを話す努力をする
- 3 現地スタッフを大切にする
- 4 現地の人々を敬い、丁寧に接する。
- 5 日本人であることを誇りに思い、日本人として恥ずかしくない生活を送る
- 6 派遣教員の生活は保護者からは特に厳しい目で見られがちである 住宅・生活水準・旅行・一時帰国や本帰国の話題は厳禁
- 7 現地でしかできない経験を積む

8 「もっとこうすればよかった」と感じたこと

- 1 予想以上に教材の入手が困難であったため、小学校で担当する教科も考えて準備をするべきであった
(計量スプーン・ゆで卵スライサー・オーケストラを見せられるDVD、英語の授業で使いたい資料映像など)
- 2 日本や日本の学校の様子がわかる写真や映像を用意すべきであった
(桜や田園風景の写真・教室や行事の映像・冬の様子・季節行事の様子)
※日本の学校生活を経験したことがない子どもが多数在籍している

